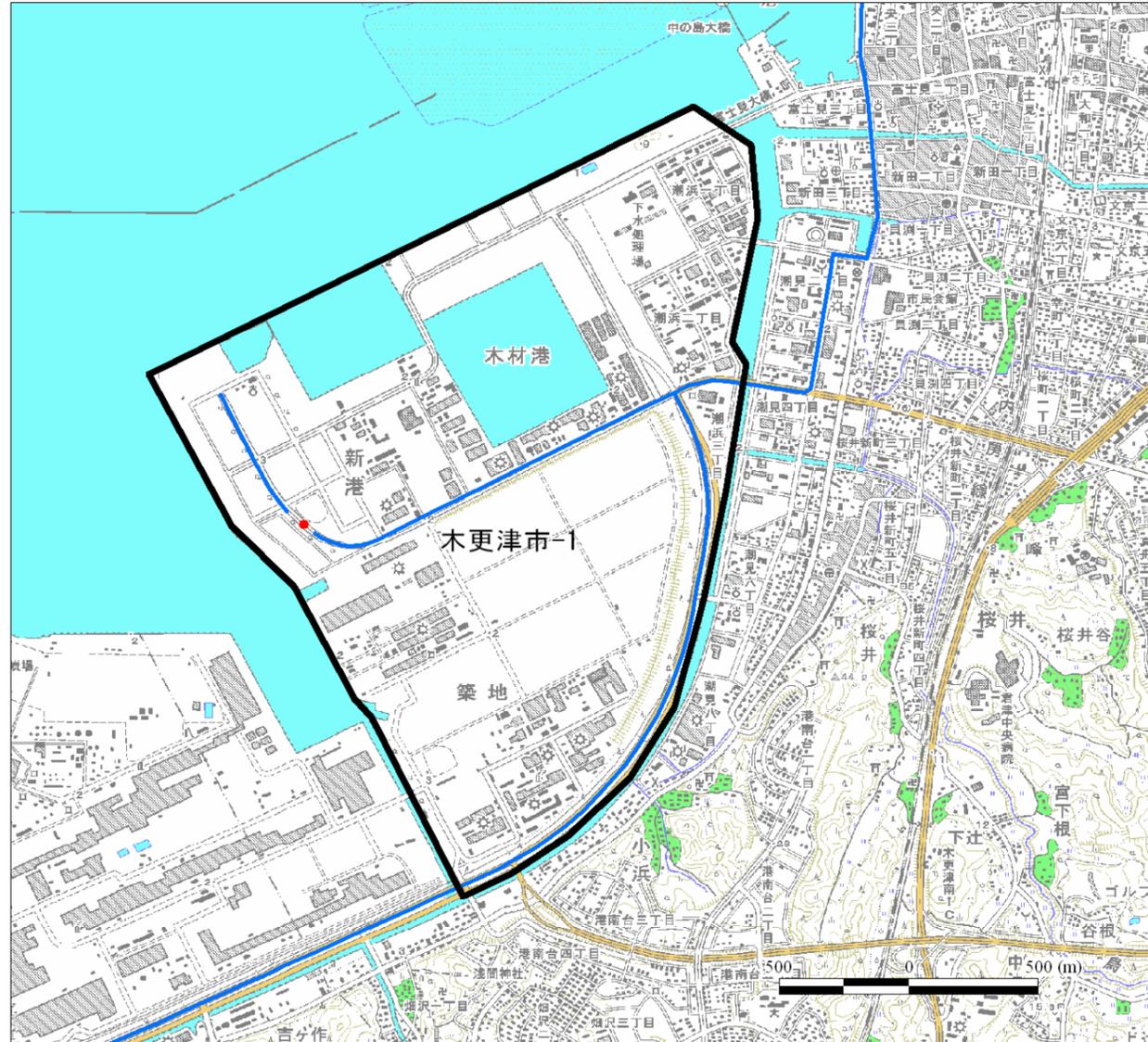
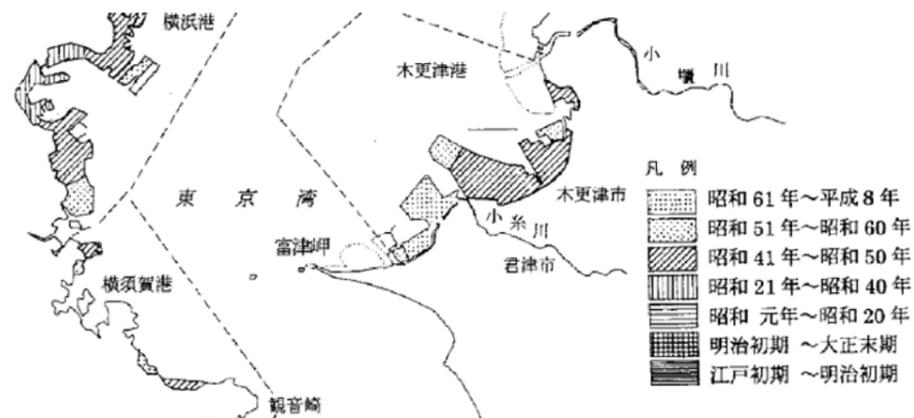
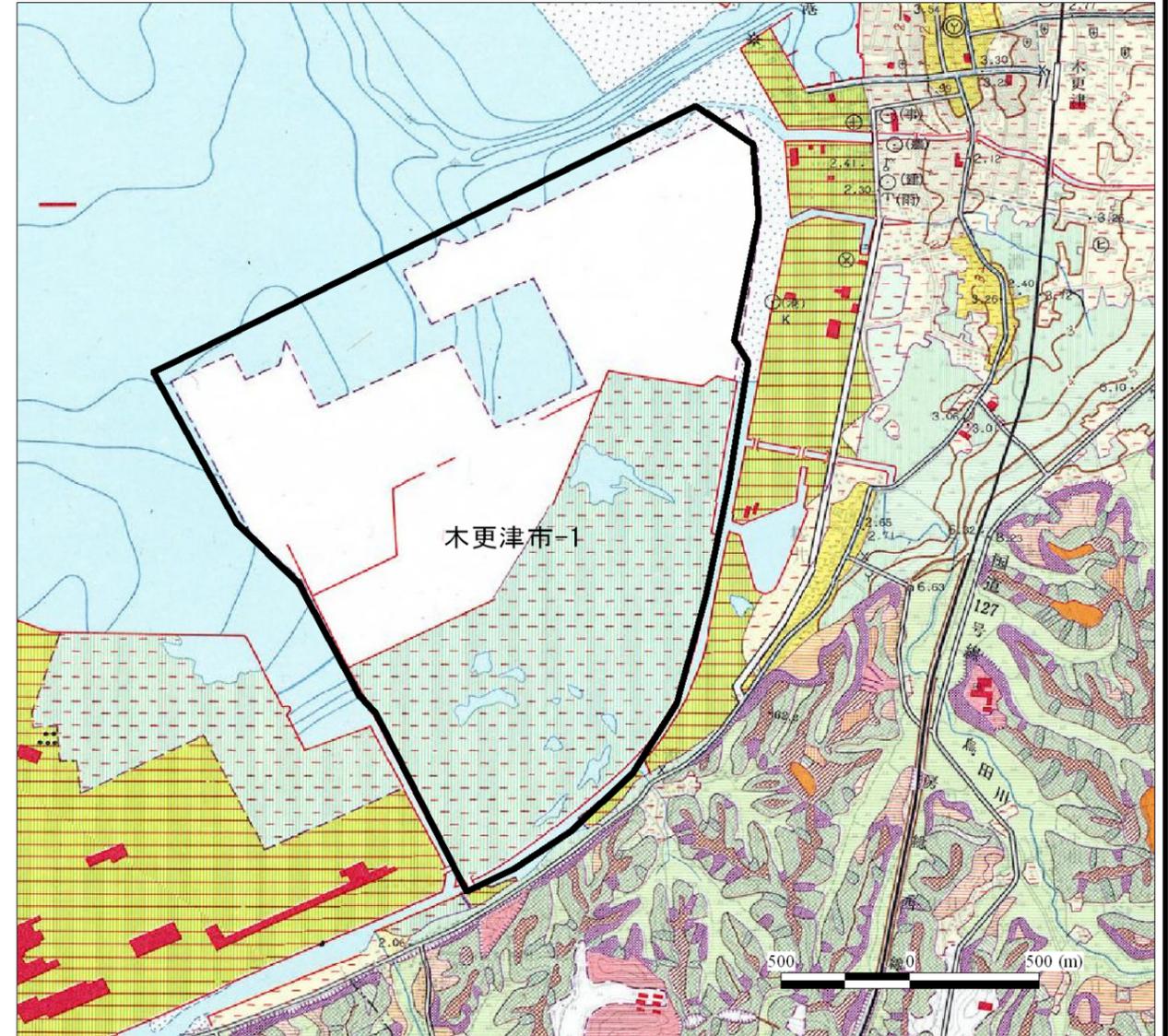


箇所名	木更津市-1	都道府県	千葉県	市区町村	木更津市	地区	新港	1/6
発生面積	小	地形分類	干拓地・埋土	液状化発生履歴	1987千葉県東方沖地震の際に液状化発生の履歴あり			
土地改変履歴	木更津港は昭和43年から昭和49年にかけて埋立られた(潮浜地区のみ昭和50年代の埋立)							
被害概要	新港で1箇所液状化発生あり							
噴砂の状況	不明	地盤の変形量(沈下、傾斜)	不明	被害の程度	小			
出典・調査	東北地方太平洋沖地震による関東地方の地盤液状化現象の実態解明委員会							

平面図 (赤色は液状化、青色は非液状化を示す。面的着色は、専門家が現地調査結果に地形・地質情報等を加味して、その範囲を推定したものであり、その境界位置は厳密なものではない)



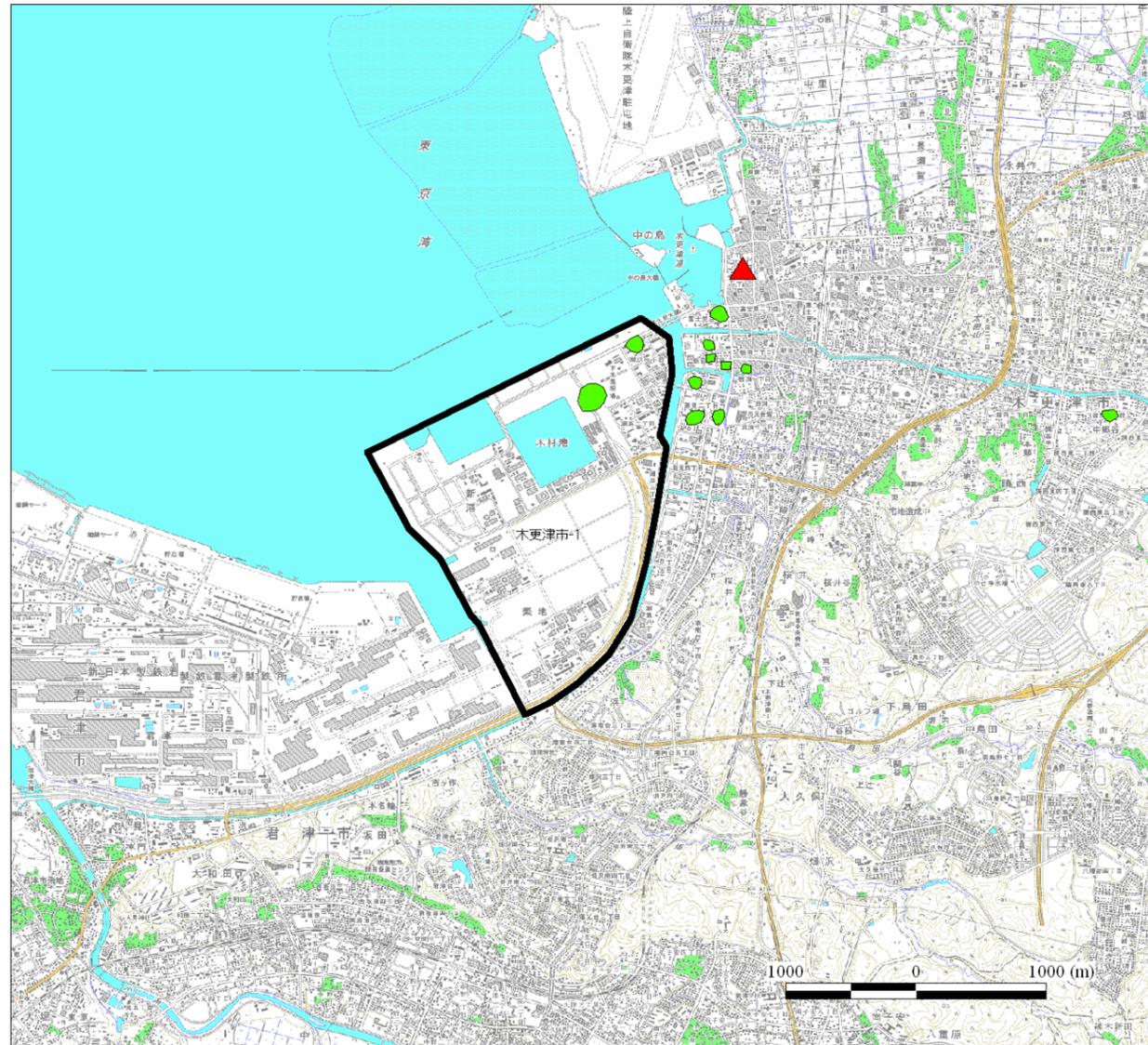
土地条件図



国土庁大都市圏整備局、1993

箇所名	木更津市-1	都道府県	千葉県	市区町村	木更津市	地区	新港	2/6
発生面積	小	地形分類	干拓地・埋土	液状化発生履歴	1987千葉県東方沖地震の際に液状化発生の履歴あり			
土地改変履歴	木更津港は昭和43年から昭和49年にかけて埋立られた(潮浜地区のみ昭和50年代の埋立)							
被害概要	新港で1箇所液状化発生あり							
噴砂の状況	不明	地盤の変形量(沈下、傾斜)	不明	被害の程度	小			
出典・調査	東北地方太平洋沖地震による関東地方の地盤液状化現象の実態解明委員会							

日本の液状化履歴マップ745-2008(若松加寿江著)

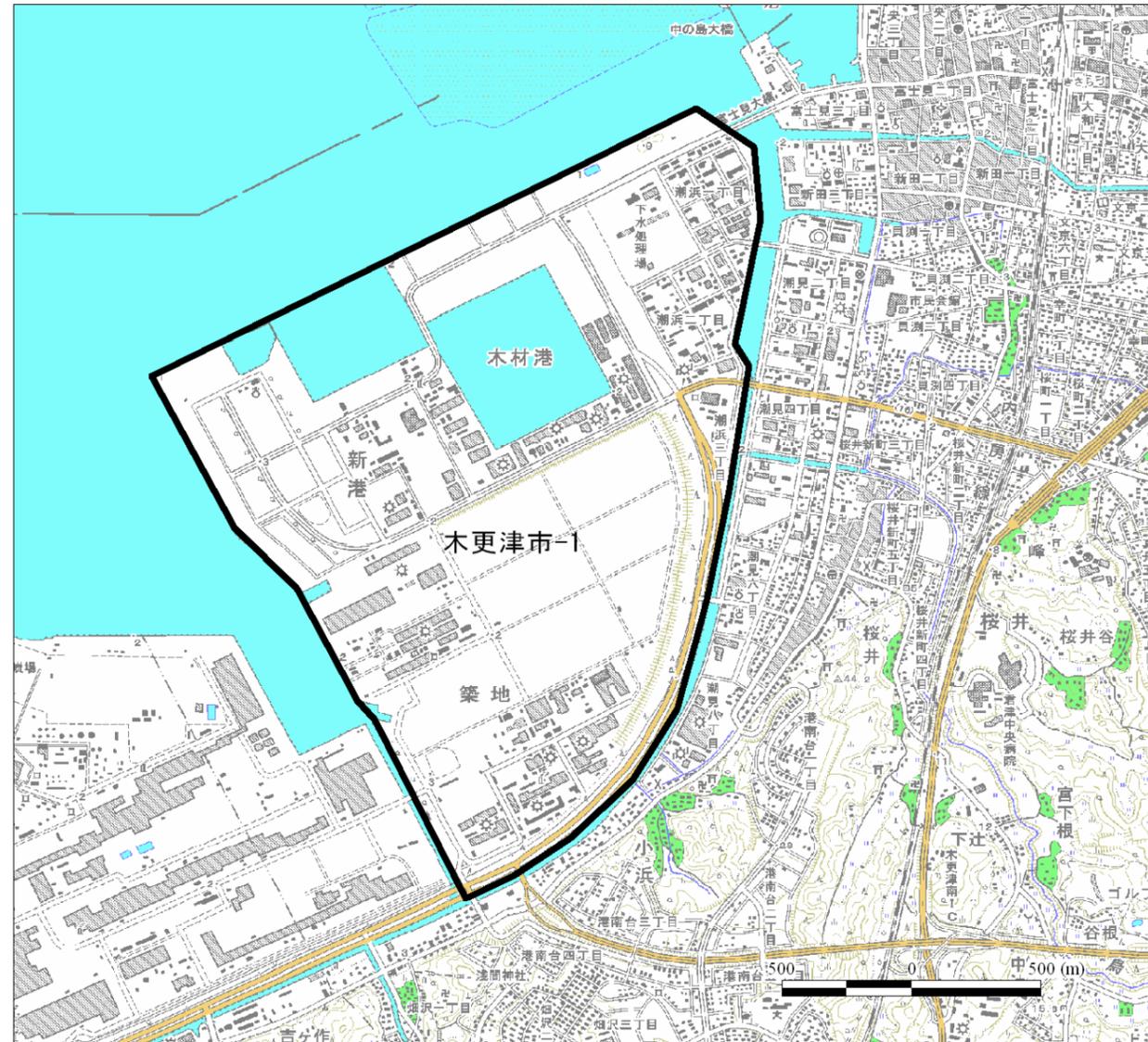


航空写真(googleマップ2011/3/31版)



箇所名	木更津市-1	都道府県	千葉県	市区町村	木更津市	地区	新港	3/6
発生面積	小	地形分類	干拓地・埋土	液状化発生履歴	1987千葉県東方沖地震の際に液状化発生の履歴あり			
土地改変履歴	木更津港は昭和43年から昭和49年にかけて埋立られた(潮浜地区のみ昭和50年代の埋立)							
被害概要	新港で1箇所液状化発生あり							
噴砂の状況	不明	地盤の変形量(沈下、傾斜)	不明			被害の程度	小	
出典・調査	東北地方太平洋沖地震による関東地方の地盤液状化現象の実態解明委員会							

地形図(数値地図25000)



1/25000旧版地形図:大正10年測量

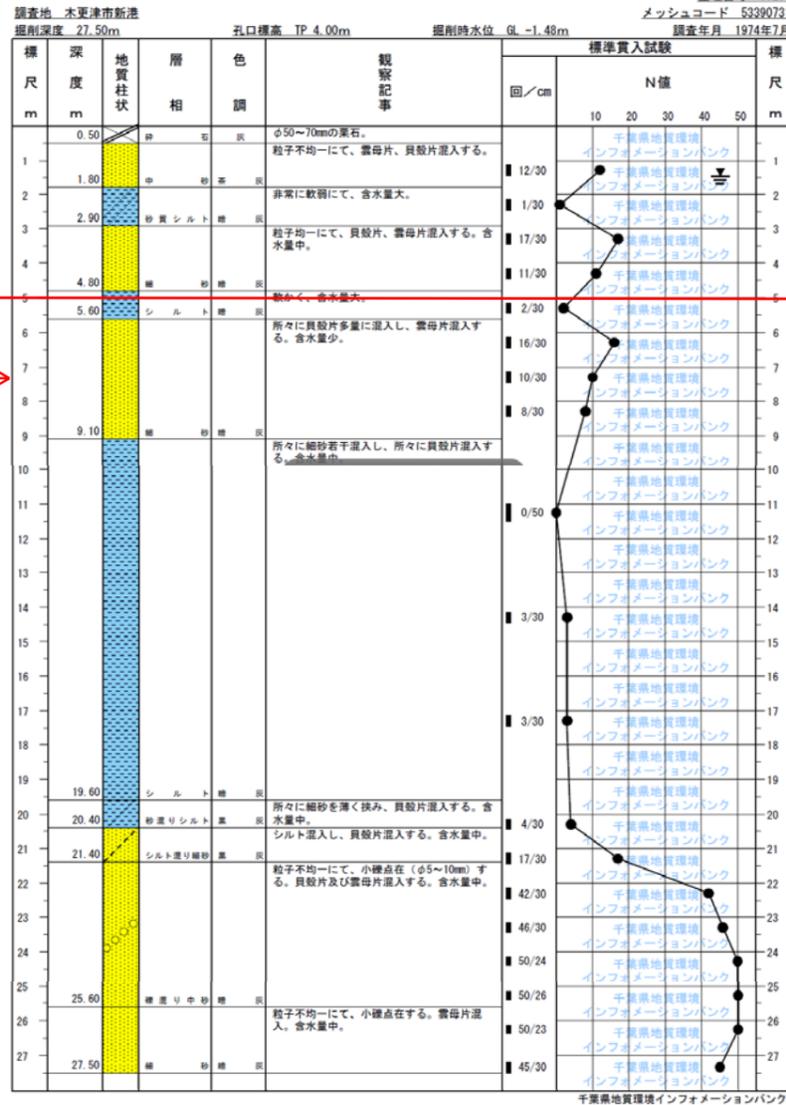


箇所名	木更津市-1	都道府県	千葉県	市区町村	木更津市	地区	新港	4/6
地下水水位	GL-1.48~3.05m	液状化対象層(層厚、深度)						
湿潤密度 ρ_t		平均粒径D50		細粒分含有率FC		塑性指数Ip		
平均N値	1~17	液状化強度RL20		S波速度Vs		相対密度Dr		
液状化抵抗率F		適用基準		液状化指数PL				

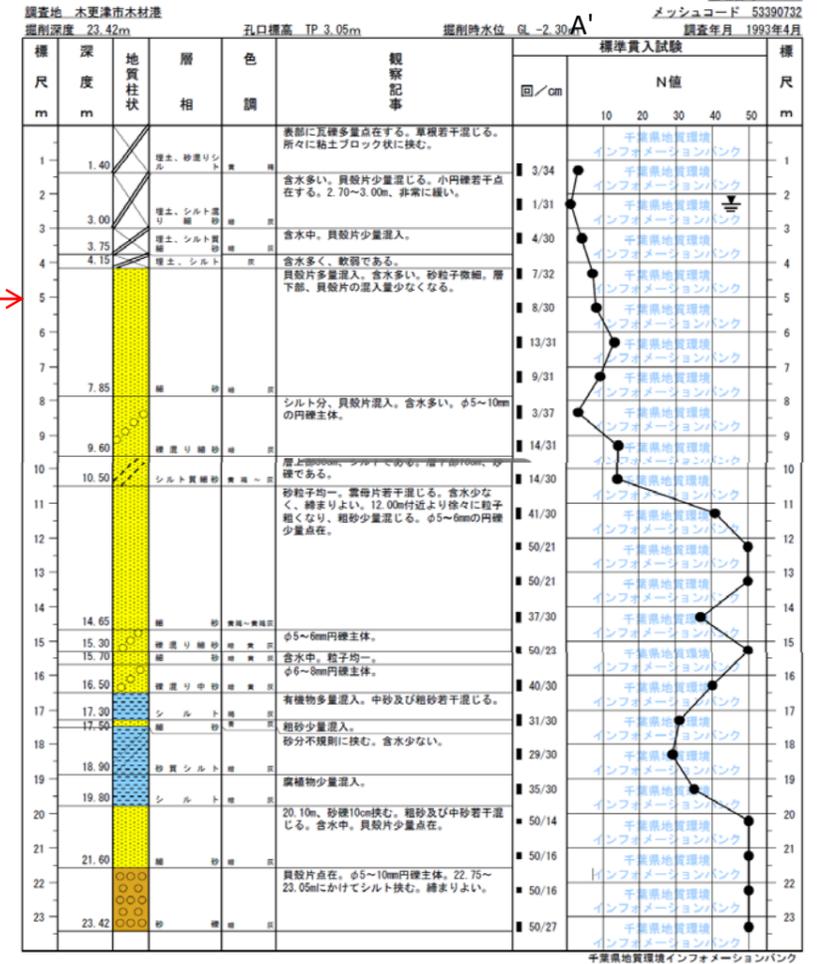


出典:千葉県地質環境インフォメーションバンク

柱状図

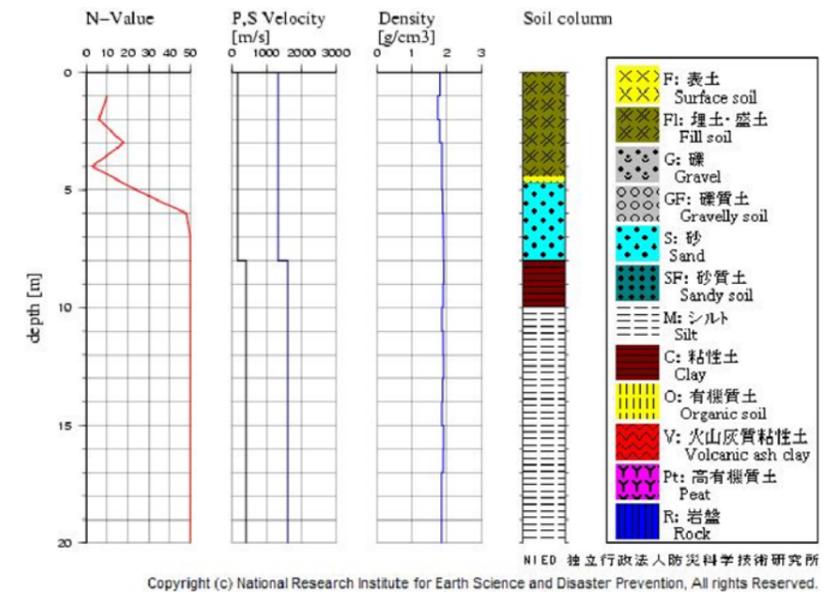
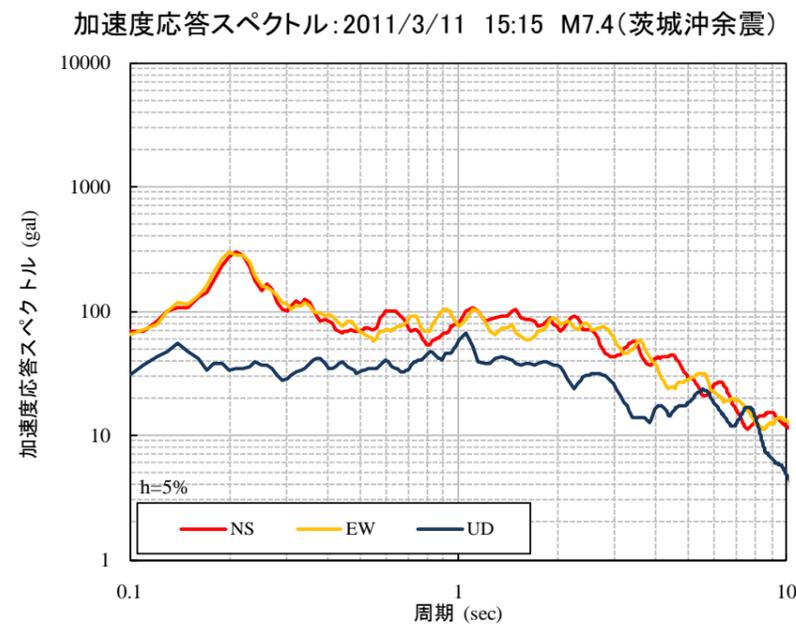
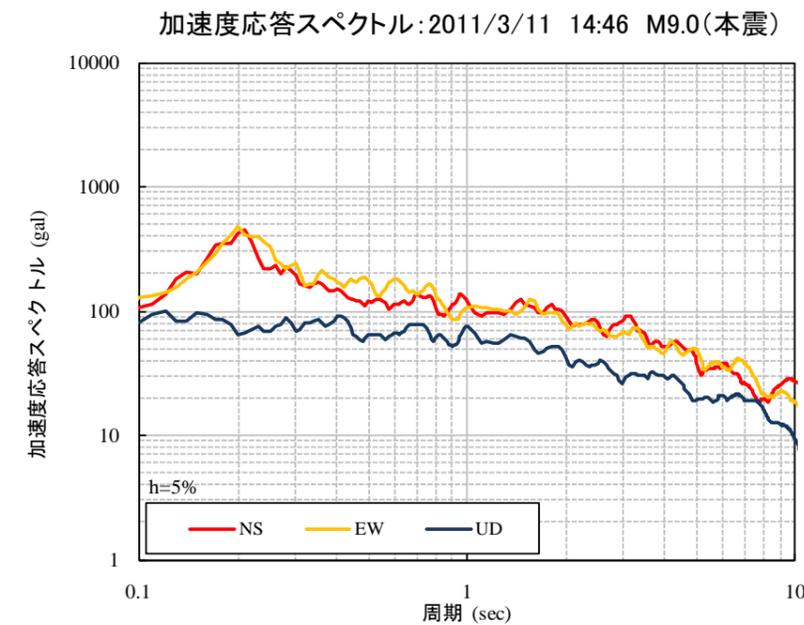
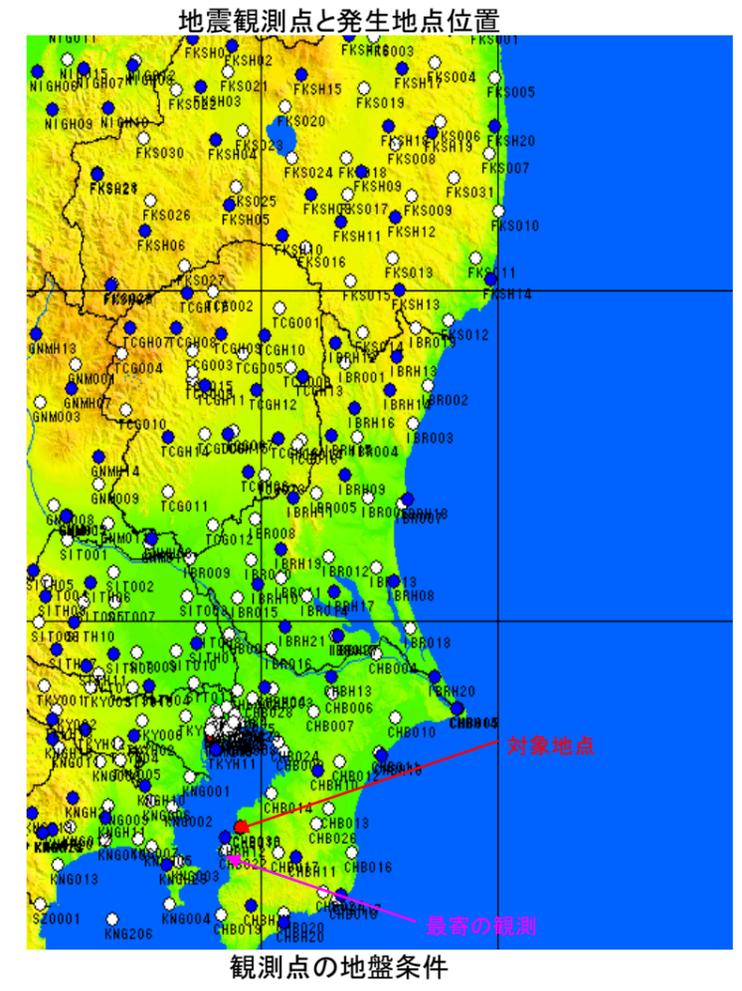
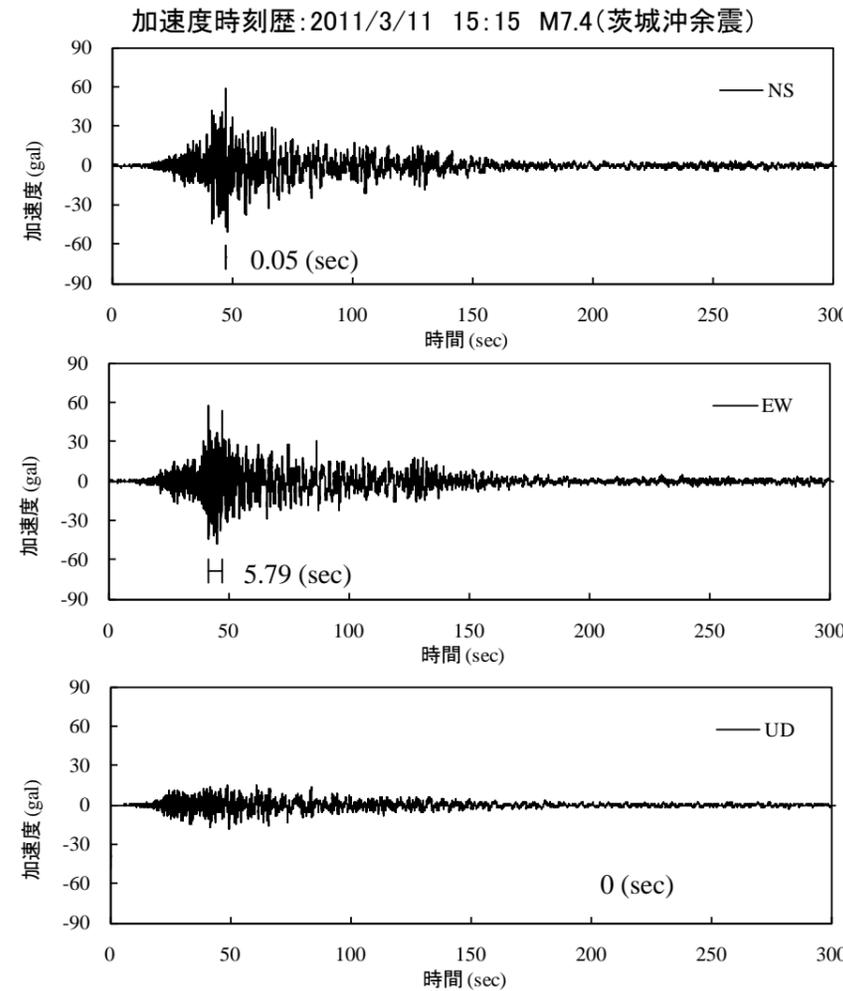
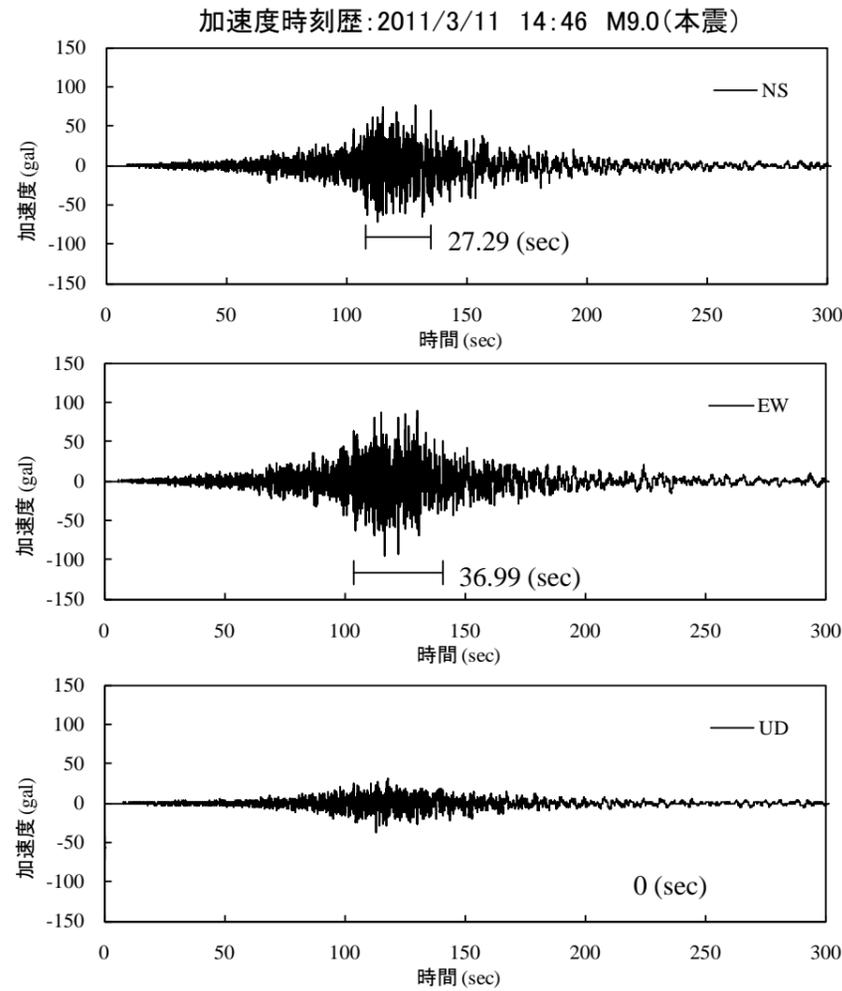


柱状図



千葉県地質環境インフォメーションバンク

箇所名	木更津市-1	都道府県	千葉県	市区町村	木更津市	地区	新港	5/6			
対象地震	2011/3/11 14:46 M9.0(本震)	観測点	K-NET富津(CHB022)	対象地点との距離(km)	7.7	最大加速度(gal)	98.9	最大速度(kine)	23.9	継続時間(50gal以上)(s)	36.99
	61.9						15.2		5.79		
注)最大加速度、最大速度の値は3成分合成値				気象庁震度(本震)	5弱	出典	防災科学技術研究所HP				



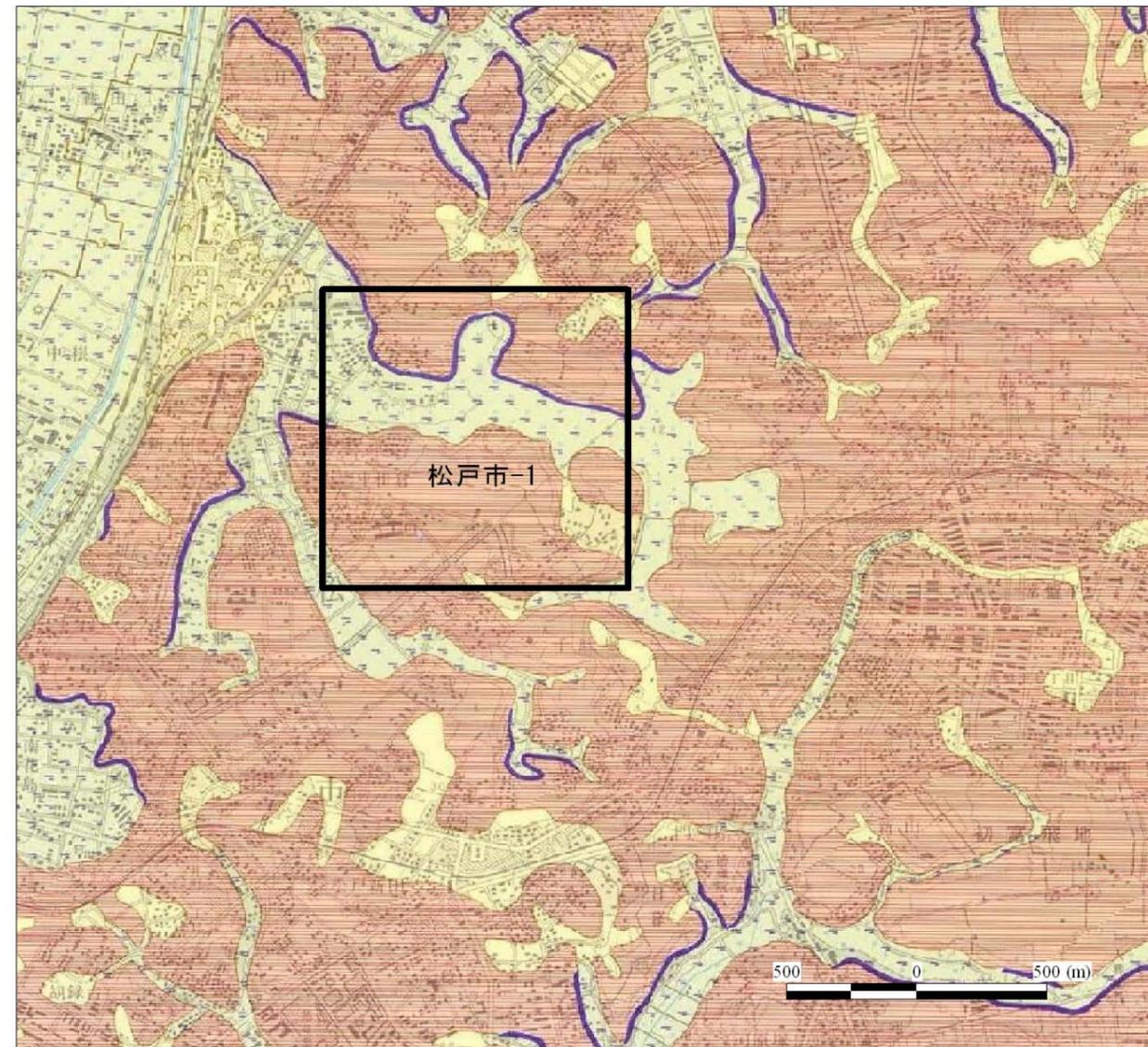
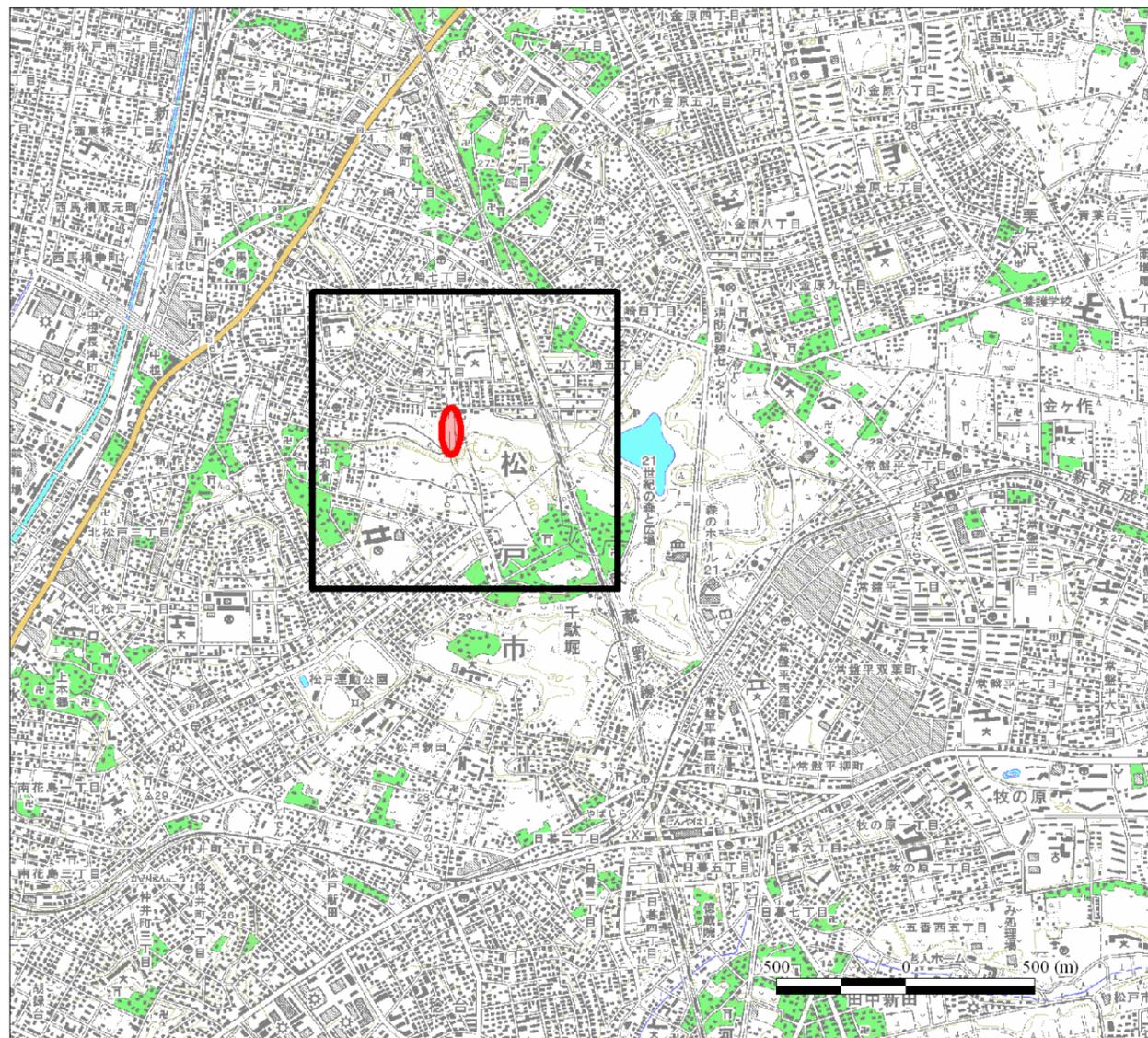
箇所名	木更津市-1	都道府県	千葉県	市区町村	木更津市	地区	新港	6/6
発生面積	小	地形分類	干拓地・埋土	液状化発生履歴	1987千葉県東方沖地震の際に液状化発生の履歴あり			
土地改変履歴	木更津港は昭和43年から昭和49年にかけて埋立られた(潮浜地区のみ昭和50年代の埋立)							
被害概要	新港で1箇所液状化発生あり							
噴砂の状況	不明	地盤の変形量(沈下、傾斜)	不明	被害の程度	小			
出典・調査	東北地方太平洋沖地震による関東地方の地盤液状化現象の実態解明委員会							

写真なし

箇所名	松戸市-1	都道府県	千葉県	市区町村	松戸市	地区	八ヶ崎(千駄堀トンネル取付道路)	1/6
発生面積	小	地形分類	谷底平野	液状化発生履歴	液状化発生の履歴なし			
土地改変履歴	1989年以降に谷底平野に盛土して道路を建設							
被害概要	千駄堀トンネル(市道)の八ヶ崎側の坑口部が液状化し、噴砂、道路取付部(台地と谷底平野の境界部)の段差30~50cmが発生(通行止)							
噴砂の状況	道路一面に発生	地盤の変形量(沈下、傾斜)	道路取付部の段差30~50cm			被害の程度	中	
出典・調査	東北地方太平洋沖地震による関東地方の地盤液状化現象の実態解明委員会							

平面図 (赤色は液状化、青色は非液状化を示す。面的着色は、専門家が現地調査結果に地形・地質情報等を加味して、その範囲を推定したものであり、その境界位置は厳密なものではない)

治水地形分類図



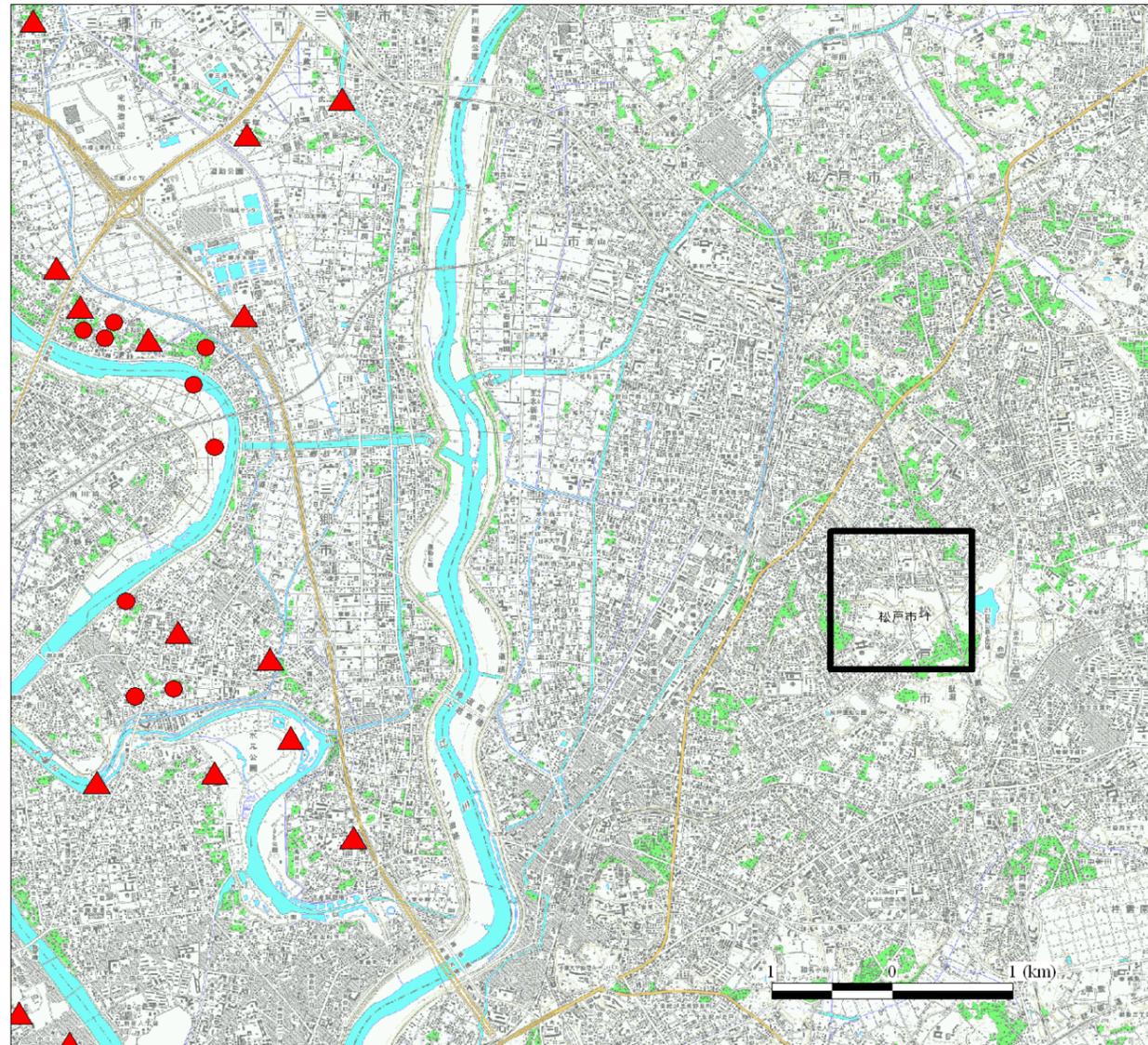
1989年頃
国土地理院HP



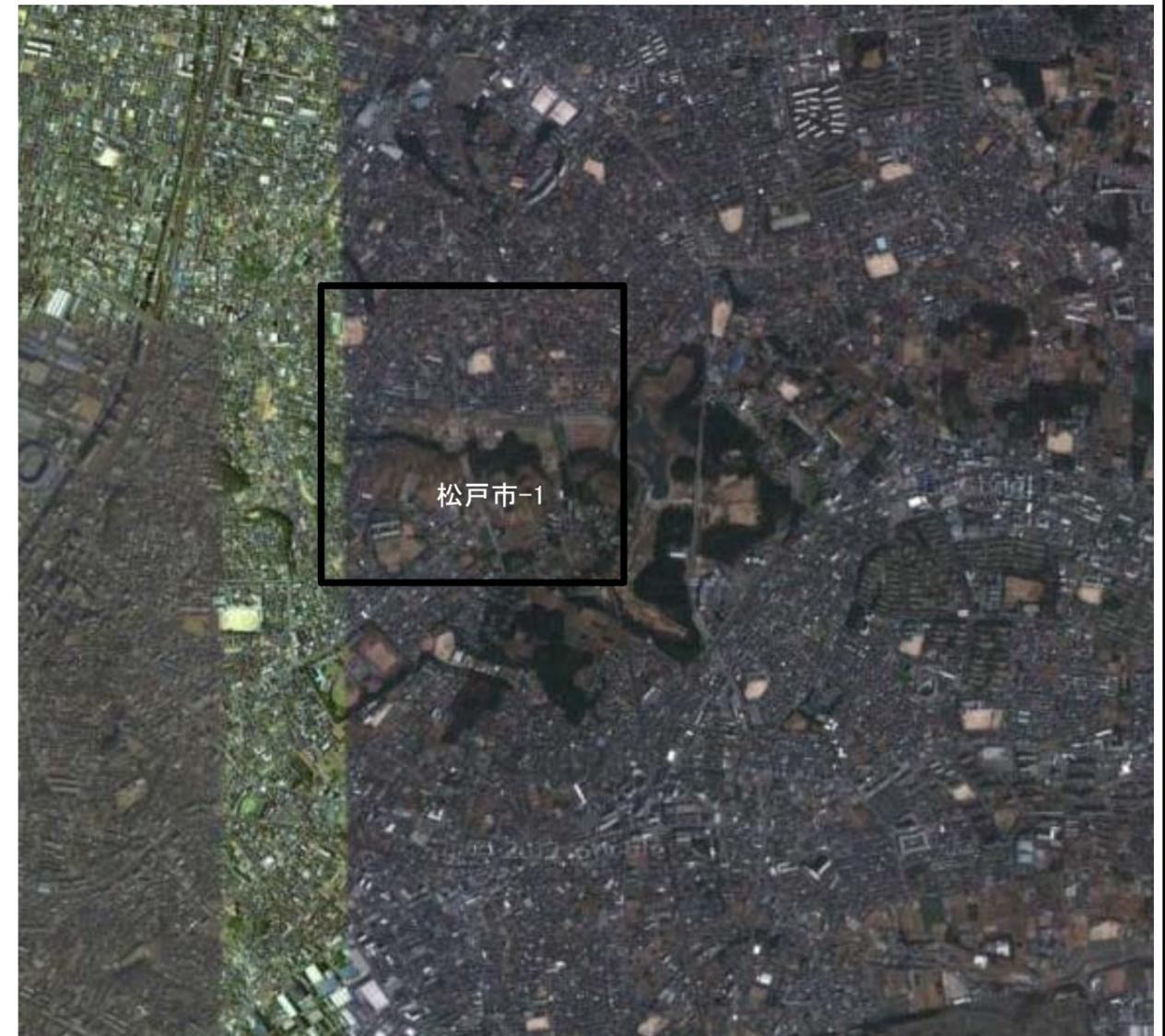
2008年頃
国土地理院HP

箇所名	松戸市-1	都道府県	千葉県	市区町村	松戸市	地区	八ヶ崎(千駄堀トンネル取付道路)	2/6
発生面積	小	地形分類	谷底平野	液状化発生履歴	液状化発生の履歴なし			
土地改変履歴	1989年以降に谷底平野に盛土して道路を建設							
被害概要	千駄堀トンネル(市道)の八ヶ崎側の坑口部が液状化し、噴砂、道路取付部(台地と谷底平野の境界部)の段差30~50cmが発生(通行止)							
噴砂の状況	道路一面に発生	地盤の変形量(沈下、傾斜)	道路取付部の段差30~50cm				被害の程度	中
出典・調査	東北地方太平洋沖地震による関東地方の地盤液状化現象の実態解明委員会							

日本の液状化履歴マップ745-2008(若松加寿江著)

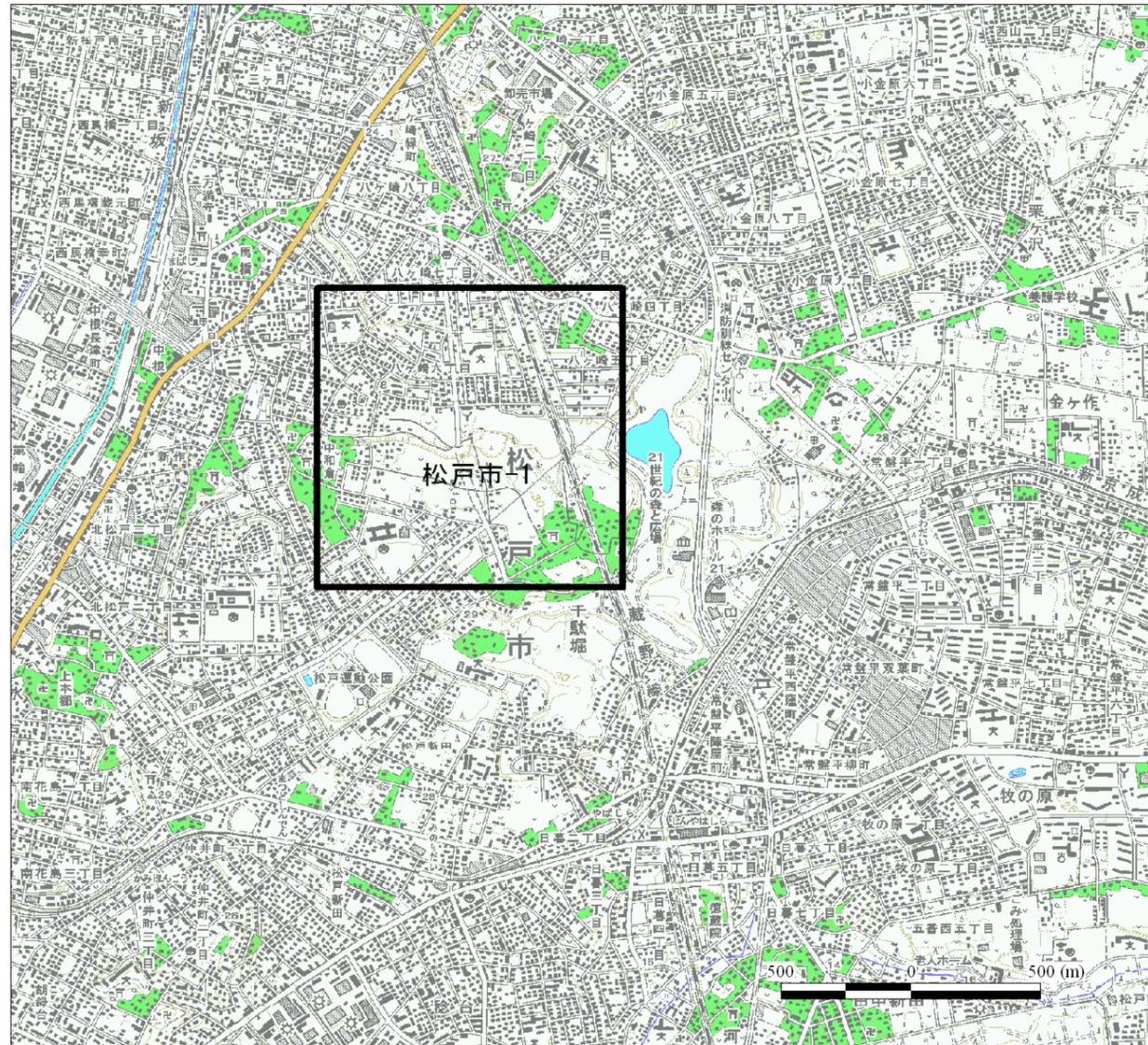


航空写真(googleマップ2009/3/19版)

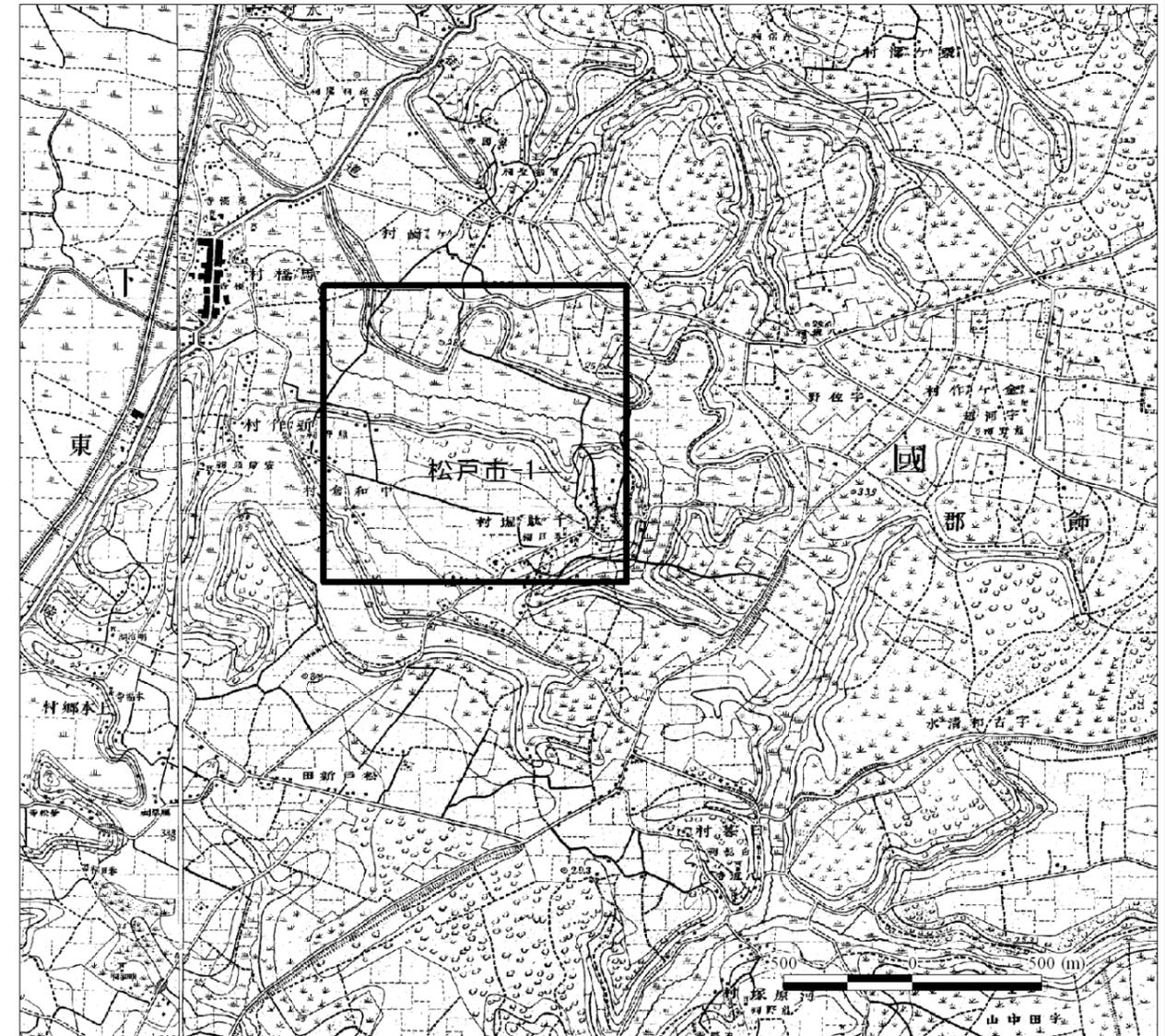


箇所名	松戸市-1	都道府県	千葉県	市区町村	松戸市	地区	八ヶ崎(千駄堀トンネル取付道路)	3/6
発生面積	小	地形分類	谷底平野	液状化発生履歴	液状化発生の履歴なし			
土地改変履歴	1989年以降に谷底平野に盛土して道路を建設							
被害概要	千駄堀トンネル(市道)の八ヶ崎側の坑口部が液状化し、噴砂、道路取付部(台地と谷底平野の境界部)の段差30~50cmが発生(通行止)							
噴砂の状況	道路一面に発生	地盤の変形量(沈下、傾斜)	道路取付部の段差30~50cm				被害の程度	中
出典・調査	東北地方太平洋沖地震による関東地方の地盤液状化現象の実態解明委員会							

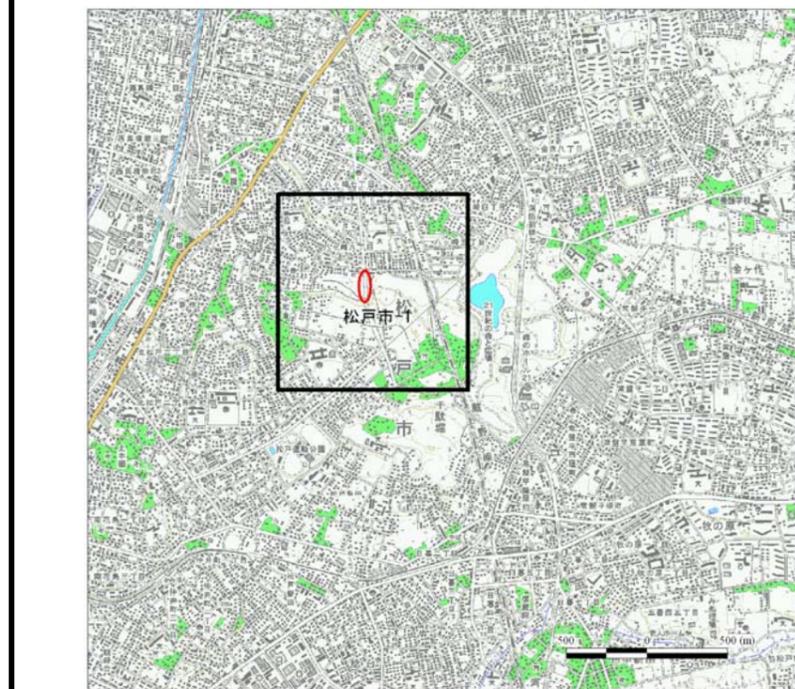
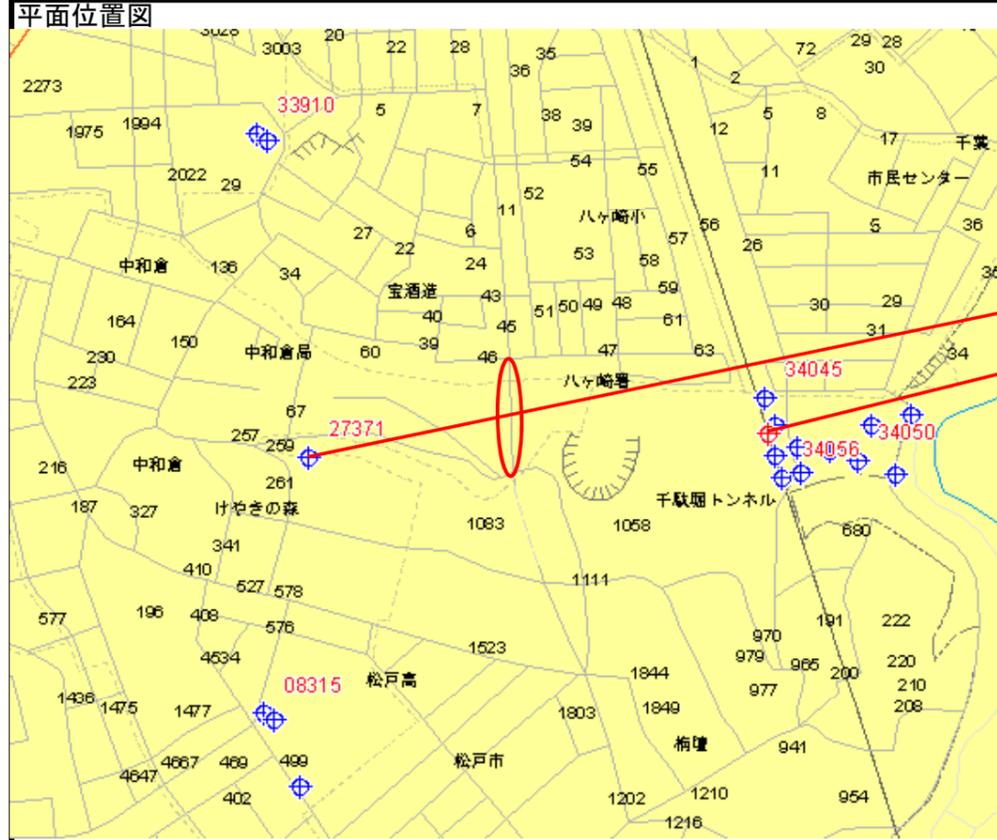
地形図(数値地図25000)



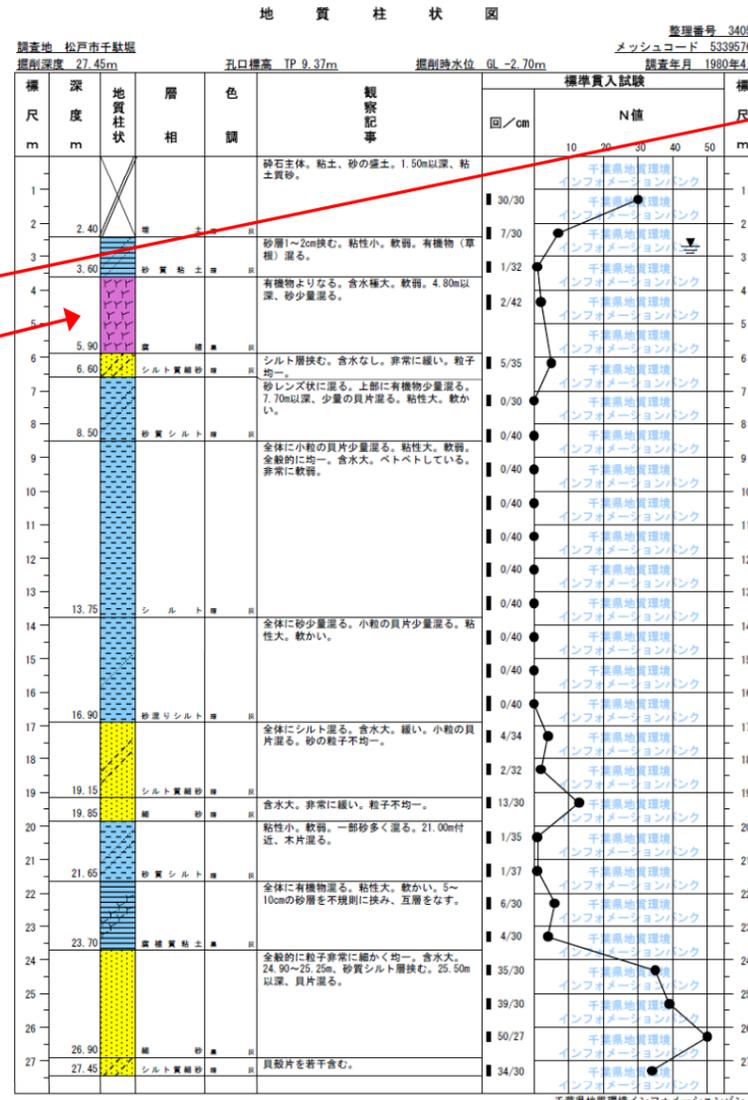
1/20000迅速図:明治13年測量



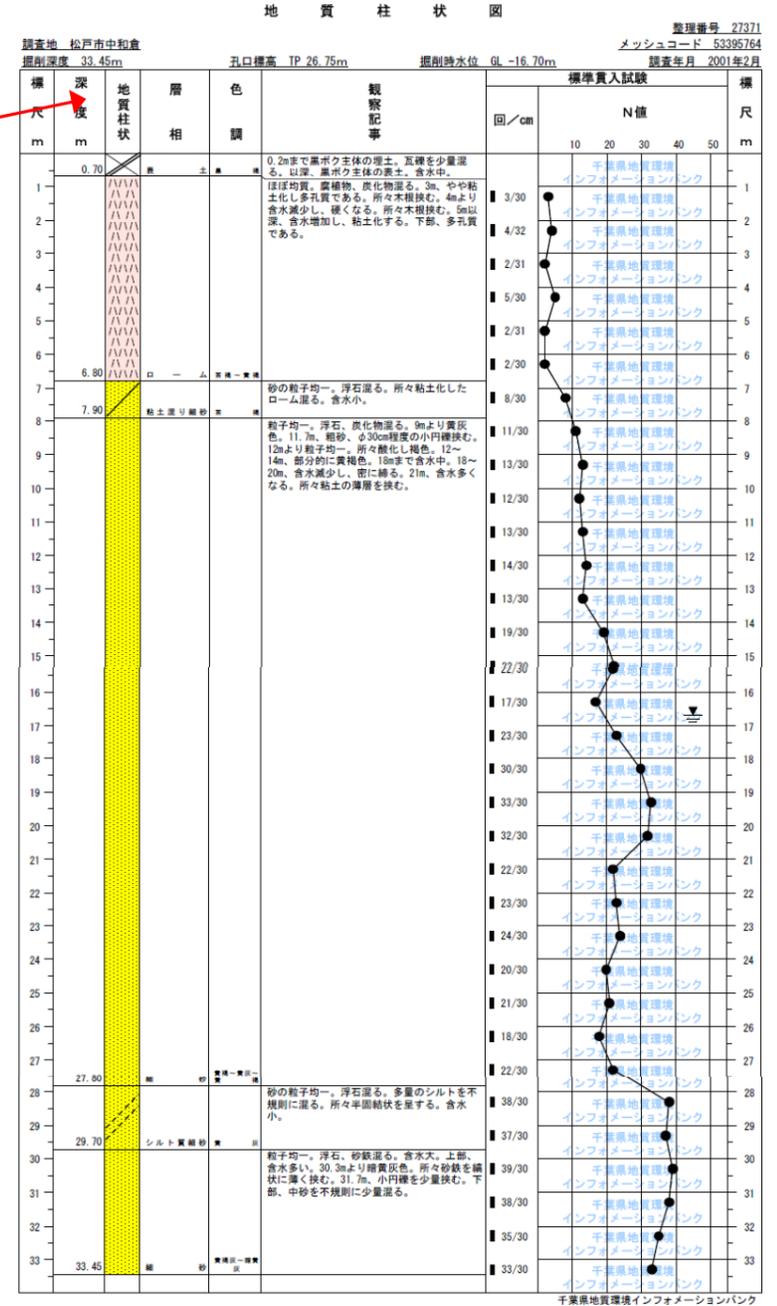
箇所名	松戸市-1		都道府県	千葉県	市区町村	松戸市	地区	八ヶ崎(千駄堀トンネル取付道路)		4/6
地下水位	GL-2.7m	液状化対象層(層厚、深度)	Bs,As,Asc GL-0~19.85m(層厚0.7~2.95m)							
湿潤密度 ρ_t		平均粒径D50					細粒分含有率FC		塑性指数Ip	
平均N値	2~13	液状化強度RL20					S波速度Vs		相対密度Dr	
液状化抵抗率F		適用基準					液状化指数PL			



柱状図1

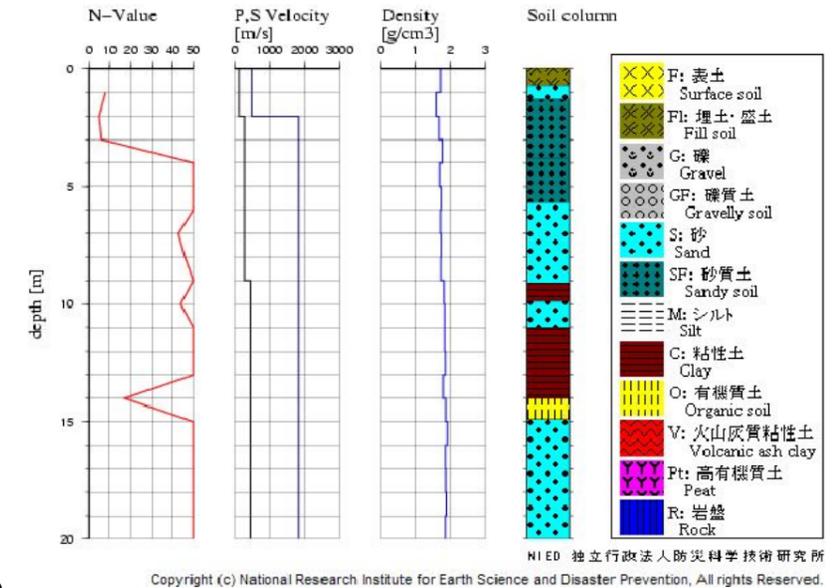
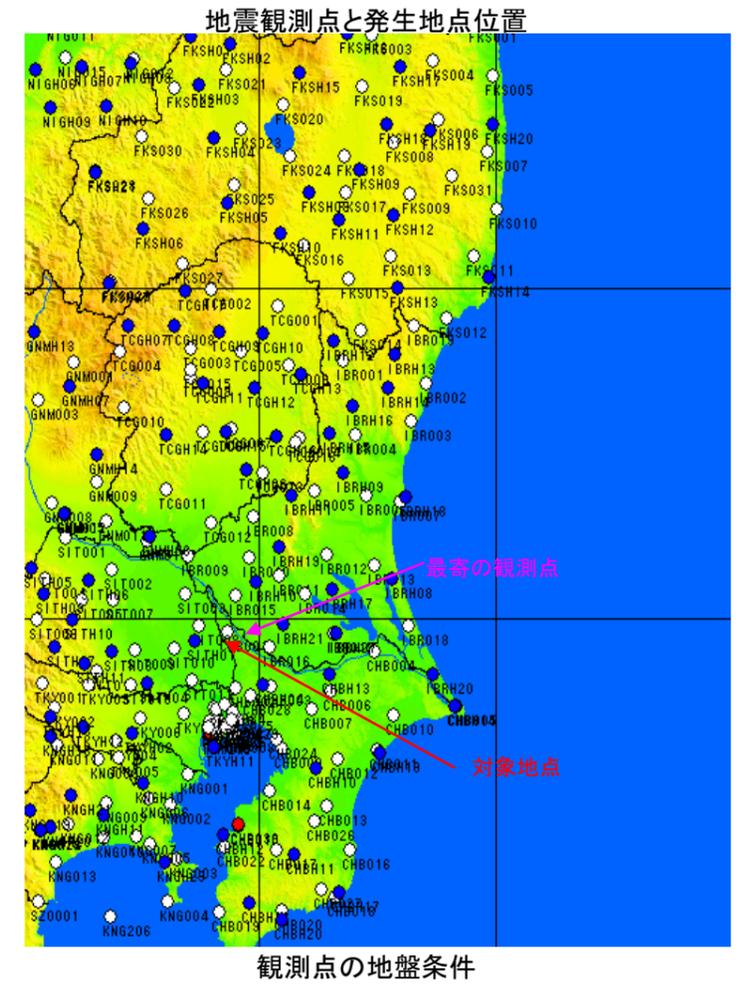
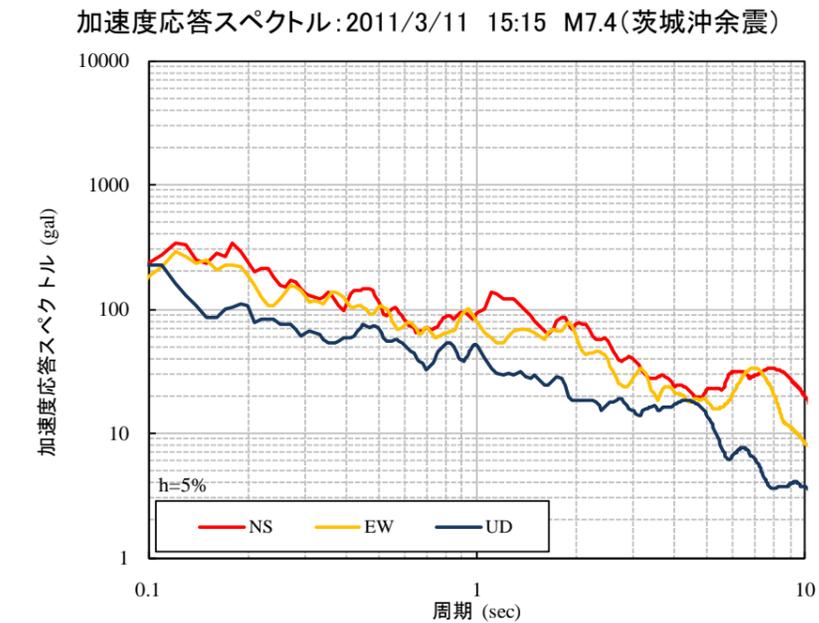
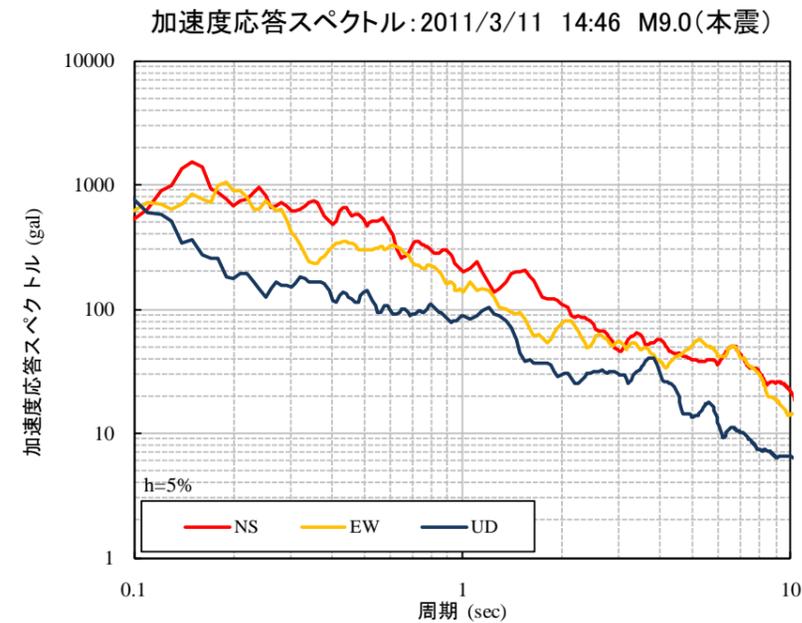
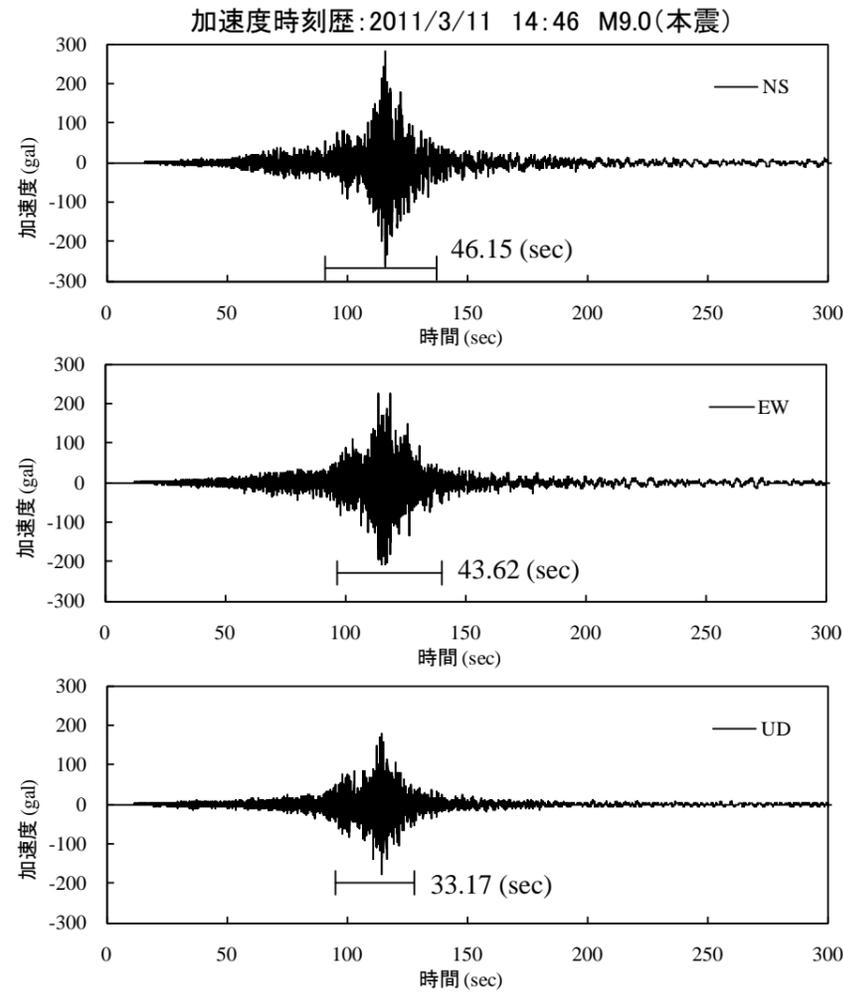


柱状図2



出典:千葉県地質環境インフォメーションバンク

箇所名	松戸市-1	都道府県	千葉県	市区町村	松戸市	地区	八ヶ崎(千駄堀トンネル取付道路)	5/6			
対象地震	2011/3/11 14:46 M9.0(本震)	観測点	K-NET松戸(CHB002)	対象地点との距離(km)	3.2	最大加速度(gal)	303.3	最大速度(kine)	25.0	継続時間(50gal以上)(s)	46.15
	98.6						15.7		15.11		
注)最大加速度、最大速度の値は3成分合成値				気象庁震度(本震)	5弱	出典	防災科学技術研究所HP				



箇所名	松戸市-1	都道府県	千葉県	市区町村	松戸市	地区	八ヶ崎(千駄堀トンネル取付道路)	6/6
発生面積	小	地形分類	谷底平野	液状化発生履歴	液状化発生の履歴なし			
土地改変履歴	1989年以降に谷底平野に盛土して道路を建設							
被害概要	千駄堀トンネル(市道)の八ヶ崎側の坑口部が液状化し、噴砂、道路取付部(台地と谷底平野の境界部)の段差30~50cmが発生(通行止)							
噴砂の状況	道路一面に発生	地盤の変形量(沈下、傾斜)	道路取付部の段差30~50cm				被害の程度	中
出典・調査	東北地方太平洋沖地震による関東地方の地盤液状化現象の実態解明委員会							

写真なし